



表紙 [アクリルたわし]
村上智佳子さん作

本弘寺別院

朝夕はまだ寒い日が続きますが、ようやく春の訪れを感じるようになりました。暖かい陽気は芽吹きと同時に身体にも変調をきたすことがあります。皆さまお変わりございませんでしょうか。

さて、2月21日(日)に霊園にて『ご葬儀なんでも相談会』を行いました。講師に一級葬儀ディレクターの資格を持つ方をお招きし、葬儀の流れ・費用・家族葬の長所短所などをご説明いただきました。当日は、20名を超える方々がお越しください、ご葬儀に関する様々な悩みをお聞かせいただきました。今回の相談会を通して、お寺の役割、使命を改めて痛感いたしました。そのためにも、この寺報が一方的なお寺からの情報発信ではなく、手に取ってくださった方とのコミュニケーションの手段となるような誌面を作りたいと思っております。ぜひ、ご感想・疑問なんでも構いませんので、お寄せくださいませ!!



ご葬儀相談会の様子です。皆さんのお悩みご不安は、十人十色でしたが、終わった頃には解決、安心に変わったようでした。次回相談会の日時・テーマは、霊園の掲示板にてご確認ください。(お彼岸期間前に掲示します)

春彼岸法要のお知らせ

当寺では以下の日程で法要を厳修いたします。お誘い合わせの上、ご参詣ください。

日時 3月20日(日)
受付 13:30～ 法要 14:00～15:00

駐車場の台数に限りがありますので、恐れ入りますが、公共の交通機関をご利用くださいますようお願いいたします。

門徒まめ知識

「えっ!?北枕は健康法?」

北枕とはお釈迦さまのお亡くなりになった時を真似て亡くなった時は北枕にするという習慣からきています。また亡くなった人と同じにするなど縁起が悪いとよく聞きます。

しかしお釈迦さまは日常的に北枕でした。頭北面西右胸(ずほくめんさいうきょう)といい、頭は北、顔は西、体は右を向いて休まっていた

我々も頭寒足熱といって頭は冷やし足は温めます。また、心臓は身体を中心より左にあり胃袋は右下に出口がありますよね。家の中でも北側は寒く南側は温かい。また、私が子どもの頃お腹が痛くなった時には祖母から右を下にして休みなさいとよく言われたものでした。

ですから、北枕は縁起が悪いものではないのです。私は二十年ほど前から北枕で休んでいます。

こども仏教

ブツダがせんせい

みんなちがって みんないい

これは金子みすずさんの『わたしと小鳥とすずと』という詩の中にある言葉だよ。

きみは、みんなと同じじゃないと不安になったりみんなができることができなかつたりすると、自分はダメだって思ったりしないかな。

反対に、できない子のことをバカにしたりしたことがないかな。

仏さまの教えの中に、こんな言葉があるよ。『青色の花は青色の光、黄色の花は黄色い光を、赤色の花は赤色の光を、白色の花は白色の光をかがやかせ』

これはね、青色の花が黄色い光をかがやかせるんじゃないで、青色の光を一生懸命かがやかせれば良いんだよという教えなんだ。

だから、きみはきみのままでいいんだよ、他の子と比べる必要のない『いのち』を生きているということなんだ。勉強ができる子、できない子、運動が得意な子、苦手な子、絵が上手な子、下手な子がいるように、みんな違って、みんないいんだよ。みんなも自分の花を一生懸命に咲かせてね。

『仏説阿彌陀經』というお経のなかに、「青色青光 黄色黄光 赤色赤光 白色白光」という言葉があります。SMAPの『世界に一つだけの花』を作詞した横原敬之さんがお寺に訪れた際に住職からこの一節の話を聞き、歌にされたそうです。この歌のように、私たちは、世界に一つだけの花です。あなたはあなたのままで良いのです★法事や法要時によく『仏説阿彌陀經』を読経しますので、気にしてみてください(^^) 坊守

とっぶり仏教 ～住職の重たすぎる仏教ぼなし～

あす おも ころ あだくら よわ あらし ふ 「明日ありと思う心の仇桜 夜半に嵐の吹かぬものかは」

私はこの時期になると必ずこの歌を思い出します。これは、日もとっぶり暮れた頃に比叡山へ辿り着き、夜も更けたので明朝より出家の儀式を執り行おうと言われた親鸞聖人が詠まれた歌です。この時、九歳でした。「仏法には明日は無くそうろう」という言葉がありますが、幼くして父を亡くし、八歳で最愛の母を亡くした聖人の眼には、この世界はどの様に映っていたのでしょうか。その親鸞聖人が晩年には「本願力(ほんがんにき)にあいぬれば空(むな)しく過(す)ぐる者(もの)ぞなし」と詠われています。

私が仏教と向き合うようになったのは、今から十五年ほど前からです。正直に言って仕事としてではなく、一人の人間として道を求めています。たしかに僧侶という立場ゆえ「死」というものが日常にあるお蔭でしょう、自分の死というものが常に意識の中にあります。ただ死というものを体験したことは当然なく想像するしかありませんが、自分の死というものを考えたときに、人生というものがいよいよ問題になりました。最後の時(意識があればの話ですが)後悔はしたくない。後悔の塊みたいな性格の私でしたので、最後の局面で人生を振り返り後悔してしまつたら、それはもう取り返しがつきません。そんな風にジタバタしていた頃に、たまたま私には、この世界とそこに生きる自己というものをただひたすらに求められた方が居てくださったのです。それが親鸞聖人という方です。

死が問題になったとしても最後の日は何時なのかは誰にも分かりません。ですから結局は日々その瞬間に納得が出来ているのかということでした。こんな言葉があります「人間の物差し損か得か、仏の物差し嘘か真か」。損か得かの物差しが価値基準で物事を判断している日々は結果に関係なく人生に空しさを感じます。そんな時にはきまって「それで死んでいけるか」と心の奥底から聞こえてくるのです。基本的には人間には損か得かしかありません。そこに聞こえてくる「声」が仏さまの呼び声なのでしょう。

円満解決している世に円満解決出来ない私が生きている。そしてそれは、解決出来ぬままに本願に願われている世界です。少し難しい表現をさせていただきましたが、こんなことを少しずつ語らせて頂くなかに皆さんと共に念仏を味わっていきたくと思います。

合掌 釋宣弘

お作法のはなし～お仏飯～

浄土真宗では、朝一番に炊き上がった白米を先ずお仏壇にお供えします。これを**お仏飯(ぶつばん)**といいます。

お仏壇まで運ぶ時は、小さなお盆にお仏飯を載せ、自分の息がかからないよう、口より高く掲げてお持ちします。

本来は、お昼にお下げしますが、ご飯が固くなってしまい美味しくいただけないことが多いので、私たちも大きな法要以外は、朝のお勤めの後、朝ご飯でいただきます。

また、毎朝ご飯を炊かない方は、炊いた時にお供えしてください。

お仏飯は、ご飯を円柱形に盛ります。盛槽(もっそう)を使うと便利です。



盛槽



筒の中にご飯入れて、突き出し棒でご飯を上から押しします。お寺ではステンレス製のものを使用しています。仏具店などで、だいたい1,200円～2,000円で販売されています。

年間行事

- 1月1日 修正会
- 3月春分の日 彼岸法要
- 8月15日 お盆法要
- 9月秋分の日 彼岸法要
- 11月18日 報恩講

定例法話

- 毎月18日 11時 お寺
- 毎月第一日曜 14時 霊園

本弘寺別院
秦野市渋沢 1398-12
TEL: 0463-82-9577
honkouji.wakka@gmail.com